## 統　計

### 産業災害の推移を見て

下の図は，昭和42年から55年までの，産業災害における業種別の度数率（100万延労働時間当たりの災害者数）の推移を示したものである．特徴的なところは，業種別では，鉱業や港湾運送業に度数率が高いことと，第一次石油ショック以後どの業種も低下したことである．鉄鋼業は最も低い製造業の部類に入つている．ちなみに高炉メーカー各社の度数率は現在だいたい0.25前後である．

一般に労働災害は，人間—機械システムでの相互のかかわり具合の変化によつて変遷してきたといえる．少し前の赤煙を当然のように吐き出していた時代は，その組み合わせが未熟であつたがために，災害も公害も多かつたのであるが，そのシステムが先人達の尊い，貴重な経験と社会的要求により，高度になるにつれて，それらが減少してきたといえる．このシステムの成熟度は産業別にも，また企業規模によつても異なつていると考えられる．他方，石油ショックによる経済規模の縮少，減速は人間と機械とのかかわりにおいて，人間をより安全な側に引き入れたということで，労働災害を低下させたと考えられる．さて私達の生産現場ではいまだ，重大災害が皆無とはいえず，安全確保の難しさを痛感している．そして人間—機械システムがいかに高度化しても，人間との結合は避けられないし，一方では人間自体の進歩は，長年月にわたり，ほとんど本質的な面で変わりようがないから，一人一人の安全感度を高めていくことが重要なファクターになつている．度数率という統計上の小さな数値を見ていると，昔習つたハインリッヒの法則* を思い出し，その裏に秘められた潜在的可能性の大きさに戦慄を覚えるし，第一線の生産現場では，間断なく安全への努力が払われているゆえんである．

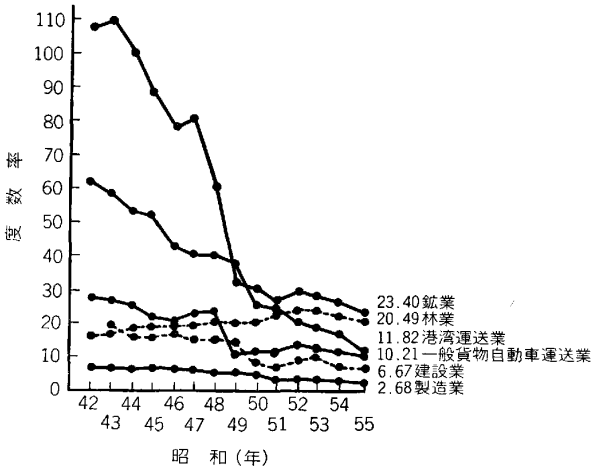


図　産業別度数率の推移
（労働災害動向調査による）

* ハインリッヒの法則
（重大災害件数）：（軽災害件数）：（災害に至らなかつた事故，事象）＝1：29：300

（住友金属工業(株)鹿島製鉄所　姉崎正治）

## 編集後記

春の訪れとともに鉄鋼業も回復の兆しありと明るいニュースも聞かれるようになりました．この中にはかなり期待感が含まれているものの，日本の鉄鋼業も少しずつ変革しているのが感じられます．このような時代の流れとともに「鉄と鋼」の内容も幅広くなつてきていることは読者の皆様もお感じになつていることと思います．今月は新しい分野，基幹分野についての興味ある内容が掲載されていますので参考になることが多いと思われます．

さて時代に適合するように迅速なる新技術や新製品開発の要望はますます加速され，投稿論文もかなりせつかちになり，結論を急ぐ傾向がみられます．論文推敲や考察のための時間的制約によるのか，技術者気質の変化によるのか，急速に変化してゆく時代の必然的傾向なのかは，しばらく注目する必要がありそうです．

また編集委員会では論文と技術報告の位置づけについての判断基準が論議されております．大学や公的研究機関，企業の製造現場や研究所等から参画されている編集委員の間でも多少評価のニュアンスが異なつております．共通している点はいずれもオリジナリティを尊重していることであり，現時点では理論的解明は残るとしても将来発展の期待できる基礎データや生産に関与する新技術の貴重なデータについての技術報告は論文と同一評価にする点では一致した方向であります．読者の立場により興味も多様化してきていると推定され，「鉄と鋼」をより充実した内容にするためにも，読者の忌憚のない御意見をお寄せ下さい．(H.O.)